

公共施設の見直しについて市民説明会と講演会を開催



▲公共施設の見直しについて講演する川嶋幸夫さん

市は先月2日、公共施設の維持・管理や改修・建て替えなどにかかる費用が、将来の過大な負担にならないようにするための公共施設の見直しについて、説明会と講演会を中央公民館で開きました。

説明会では、施設を社会教育や子育て支援など17の類型に分け、類型ごとに定めた方針に沿って、個別の施設の継続・廃止など、見直しの方向性を示した計画案について説明しました。

その後、日本経営協会専任コンサルタントの川嶋幸夫さんが「公共施設の配置の見直しに市民がどのように関わるべきか」をテーマに講演。「市民は人ごとではなく自分のこととして考えること」「行政は十分な情報の提供を行うこと」が重要などと指摘しました。

参加した約50人の市民からは「施設の廃止や統合によって市民サービスが低下しないようにしてほしい」や「市民の意見を計画に反映してほしい」などの意見が出ました。
市は今回の意見も参考に、公共施設の最適な配置をめざします。

☎経営企画課
0848・67・6009

市中心部の将来像についてワークショップを開催

市は先月10日、市中心部の景観づくりや発展の方向性など、まちの将来像を描いた「ランドデザイン」に市民の意見を反映させるためワークショップを開催しました。



▲市の中心部の将来像について話し合う参加者

ワークショップではまず、水のつながりをテーマにしたランドデザイン

の素案を説明。三原城跡の堀から港をつなぐ通りや港の周辺を整備し、水辺での生活を楽しめる場所にすることを提案しました。

その後、参加した市民ら約30人が5つのグループに分かれて、ランドデザイン素案や市中心部の空き店舗の活用方法などについて話し合い、グループごとに発表しました。

参加者からは「市の中心部は市民が住みたいと思える場所にすべき」や「空き店舗を利用した共有のオフィスがでないか」などの意見が出ました。

ワークショップは全3回で、10月までに残る2回を開催します。市では参加者の意見も参考に、3月までにランドデザインをまとめる予定です。

☎経営企画課
0848・67・6270

地域コミュニティ交通の利用状況や導入検討について報告

市は先月12日、地域の公共交通のあり方などについて話し合う地域公共交通活性化協議会の今年度の初会合を開き、市や町内会連合会などが路線バスのサービス提供がない地域で運行している「地域コミュニティ交通」の利用状況や、路線バスの利用者が少ない八幡

地域へのコミュニティ交通導入の検討状況について報告しました。

地域コミュニティ交通の利用状況については、昨年10月に定時定路線のバス型から乗り合いタクシー型に運行形態を変更した本郷地域で利用者が増加している一方、定時定路線のバス型で運行している久井地域で利用者が減少していることなどを報告。

八幡地域へのコミュニティ交通導入では、3月に市が地元町内会と連携して実施したアンケート調査の結果、51%の人がコミュニティ交通を導入した場合利用すると回答していることから、導入に向けて町内会などと協議を進めていくことを報告しました。

市は今後も、地域の状況に合わせたコミュニティ交通の運行や支援を行なっていく予定です。



▲本郷地域で運行している本郷ふれあいタクシー

☎生活環境課
0848・67・6178